

2022年12月15日 DENSO DIALOG DAY 2022 社長あいさつ

皆さま、こんにちは。社長の有馬でございます。

本日は、ご多用な中、「DENSO DIALOG DAY 2022」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

また、皆さまには、日頃からご支援賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

本日は、デンソー本社内の「ミライテラス」という福利厚生施設から配信しております。

ミライテラスという名前は、「未来」と「今」を「照らす」が由来です。

本日のダイアログデーでは、昨今ますます先行き不透明感が増す中、

当社がどのようにして「未来」を明るく照らしたいと考えているのか、

前半では戦略と取り組みをご説明させていただき、

後半の対話セッションでは、皆さまから叱咤激励や期待を率直にお聞かせいただければと思います。

では、まず私からは、これまでの経営の振り返りをした上で、

大きな課題認識と今後の舵取りの方向性についてお話しさせていただきたいと思っております。

私が社長に就任しましたのは2015年6月、早いもので7年半が経過いたしました。

この間、100年に一度の大変革期を乗り越えるべく、

CASE領域中心に積極的に投資を行うなど、一貫して「攻めの経営」を続けてまいりました。

2019年から2021年は、品質問題やコロナ禍の影響などで収益が落ち込む中、

品質基盤の立て直しに加え、

固定費の大幅圧縮など、財務体質の改善に大ナタを振るいましたが、

これも成長領域への投資拡大に向けた基盤づくりという点では、

「攻めの経営」の一環でもありました。

少し数字で振り返りますと、

2012年から2021年までの過去10年間で投じた研究開発投資は4.4兆円、設備投資は3.5兆円であり、合計約8兆円を将来への投資に振り向けてまいりました。

その間、グローバルデンソーの社員数も、13万人から17万人へと拡大させ、

「技術力」と「モノづくり力」を磨き続けながら、「人財」への投資も積極的に行うことで、

サステナブルな競争力向上に、継続的に取り組んでまいりました。

その成果は、売上や営業利益にも表れつつあり、今期は過去最高を更新できる見通しが立っております。

当社がこのように成長・発展して来られたのは、

お客様や取引先様のみならず、株主の皆さまや地域社会の皆さまなど、

日頃より温かくお支えいただいている多くのステークホルダーの皆さまのおかげでございます。

そして、そんな皆さまの後押しを受けながら、当社も積極的に投資することで、

自動車産業に関わる方々や社会の皆さまに笑顔をお届けするという理念に、

少しは近づけたのではないかと考えております。

しかしながら、とりわけこの 1-2 年間は、異常気象や戦争、コロナ禍等によって多くの尊い命が奪われたり、価値観や生活様式が一変するといった、急激かつ不可逆的な変化を目の当たりにしてきました。また、20 年先、30 年先に目を転じれば、地球環境問題や食糧不足、資源不足が一層深刻になっていることは明らかです。そうした世界と未来をみつめる中で、デンソーは、果たしてこれからも社会に笑顔を届ける企業として存在し続けられるのだろうか、人々の幸福に貢献するために、もっとやるべきことがあるのではないか、と自問自答する日が多くなってまいりました。

デンソーは、創業以来「モビリティ」を軸に、自動車産業の皆さまとともに成長し、社会に「幸福の循環」を生み出そうと邁進してまいりました。今後も、「モビリティ」を軸に、自動車産業とともに歩いていくことに変わりはありません。ただ、世界中の人々に笑顔溢れる未来をお届けするという使命を考え抜いた時、「幸福の循環」の輪を、「モビリティ」から「社会全体」に広げていきたい、それこそが、私たちデンソーの揺るぎない想いであり、これからやるべきことだと強く認識し、この度、その想いを「35 年未来像」として描き出しました。

当社が描く未来像では、地球保護に向けた循環型社会を具現化し、安心で価値の高い「モビリティ」と「モノづくり」を実現することによって、「社会活動を止めない」、「多様な価値観・幸福感に応える」ことを重点としております。そして、社会に欠かせない「人流」「物流」「エネルギー流」「資源流」「データ流」という「5 つの流れ」に着目し、それらを相互につなげ、統合的に制御することで、幸福がより大きく循環する社会、即ち「幸福循環社会」の実現に取り組んでまいります。

具体的には、これまで取り組んできた「環境・安心」の価値創造を加速すると同時に、車から車をつくるようなサーキュラーエコノミーに貢献する新たなエコシステムの構築も含め、今後 10 年で 10 兆円規模の将来投資を行ってまいります。その内訳も、設備投資に加え、ソフトウェアやデータ分野の開発投資を増やしてまいります。

また、確実に事業として成長させ、その価値を社会に広く普及させるためには、構想する力や実践する力のみならず、どんな障壁や環境変化があっても、何としても成し遂げるという「強い意志」が必要です。経営トップとして、揺るぎない強い意志を貫き、デンソーの「35 年未来像」に共感いただける仲間を増やししながら、事業として成し遂げる力を高め、幸福循環社会の実現に挑戦してまいり所存です。

ここからは、「35 年未来像」の具体的な姿や道筋について、技術の観点で CTO の加藤より、経営基盤の観点で CFO の松井より、ご説明させていただきます。説明の後に、皆さまとの対話の時間を設けておりますので、ぜひとも、忌憚のないご意見・ご質問をいただけますと幸いです。